

加賀地域における弥生時代の墓制について

下濱 貴子（小松市埋蔵文化財センター）

はじめに ～対象地域と時期区分について～

加賀地域における墓制の研究は、古くから金沢市七ツ塚墳墓群の例が知られている。加えて、平成に入り金沢市西念南新保遺跡や白山市旭遺跡群、小松市八日市地方遺跡の例から、およそその出現と展開の把握へと繋がっている。また、木棺遺存の好例はないものの、墓壙に残る痕跡を基に、木棺形式や主体部法量からの成果（前田 1998）が発表されている。報告対象地域は、主に手取扇状地及び南加賀地域を対象としている。時期区分は、細分可能な限り、前期（Ⅰ）、中期前葉（Ⅱ）、中期中葉（Ⅲ）、中期後葉（Ⅳ）、後期前半（Ⅴ前半）、後期後半（Ⅴ後半）、庄内式前半（Ⅵ）として表記している。

1 墓制の変遷と分布

（1）墓制の変遷

縄文晩期から継続する土器棺墓はⅠ期まで継続しており、Ⅱ期の墓制に関しては不明瞭である。ただ、金沢市矢木ジワリ遺跡や八日市地方遺跡における土壙墓の可能性があげられる。方形周溝墓の出現はⅢ期前半がもっとも古い。およそ櫛描文波及とともに展開する環濠集落との形成と連動するものと考えている。その後、小松式土器の展開とともにⅢ期後半頃には、加賀地域内に普及するものと思われる。また、この地域に特徴的なものとして、Ⅲ期からⅣ期にかけて、住居に近接する形で土壙墓（木棺墓）が展開する傾向がみられる。大規模環濠集落の解体がみられるⅣ期には南加賀地域における例はみられないが、おそらく、低地から台地、丘陵上への集落の展開とともに、台状墓の造成を想定している。また、Ⅵ期には、旭遺跡群内から四隅突出型墳丘墓の出現や西山墳墓群、寺井山墳墓群など、突出した墓がみられるようになる。

（2）立地と分布

手取扇状地から梯川流域にかけては、集落が確認されている数に比べると墓域の確認が非常に少ないのが現状である。縄文晩期から継続する遺跡では、弥生時代前期前半まで土器棺墓がみられる。沖積低地に河川志向集落が成立する農耕主体の生業へと移行する弥生時代中期には、集落に隣接して墓域が営まれている（集落型墓域）が、Ⅴ期以降になると、加えて居住域から分離して墓域を形成する（集落外型墓域）もみられるようになる。

2 方形周溝墓を中心とした造営のあり方

（1）墓の規模と形態

八日市地方遺跡では、Ⅲ期からⅣ期の継続した方形周溝墓の造墓が確認でき、居住域と墓域のセットが複数みられる。規模は、6m～14mほどで、集落外縁部から大型の墓を核として造営。形態は、四隅切れのものから、環濠の溝間の高まりを利用して直交する溝をきることで営まれるあり方や、陸橋部を1つから3つ設けるもの、全周するものまでみられる。大型のものは長方形を呈する。その他のⅣ期にみられる猫橋遺跡や上安原遺跡でもおよそ同様である。Ⅴ期からⅥ期には四隅切れが卓越する。規模は20mを超えるものから6m前後のものと明瞭な格差がみられるようになる。

（2）主体部の様相

方形周溝墓の主体部は、弥生時代中期段階（Ⅲ～Ⅳ期）は墳丘上は単数埋葬であり、Ⅴ期以降は、複数埋葬もみられるようになり、墳丘上での中心埋葬の意識も明瞭になる。主体部の種類は、木棺墓、素掘りの土壙墓がみられ、胎児、小児棺にあたる土器棺は、墳丘上には現在のところ確認できない。

方形周溝墓内の木棺埋葬

木棺墓は、木材遺存例は少なく、八日市地方遺跡の小口のみであるが、掘込痕跡や詳細な土層観察により、Ⅲ期にはⅠ-a型、Ⅱ型、Ⅲ型とも確認できる。Ⅳ期は、当該地域では良好な資料に恵まれていないが、同時期の県内の資料をみる限り、Ⅰ-a型、Ⅱ型がみられ、Ⅲ期の様相が継続するものと思われる。Ⅴ期以降には、Ⅰ-a型はⅡ型に比べ、優位性が述べられている（前田 1998）。

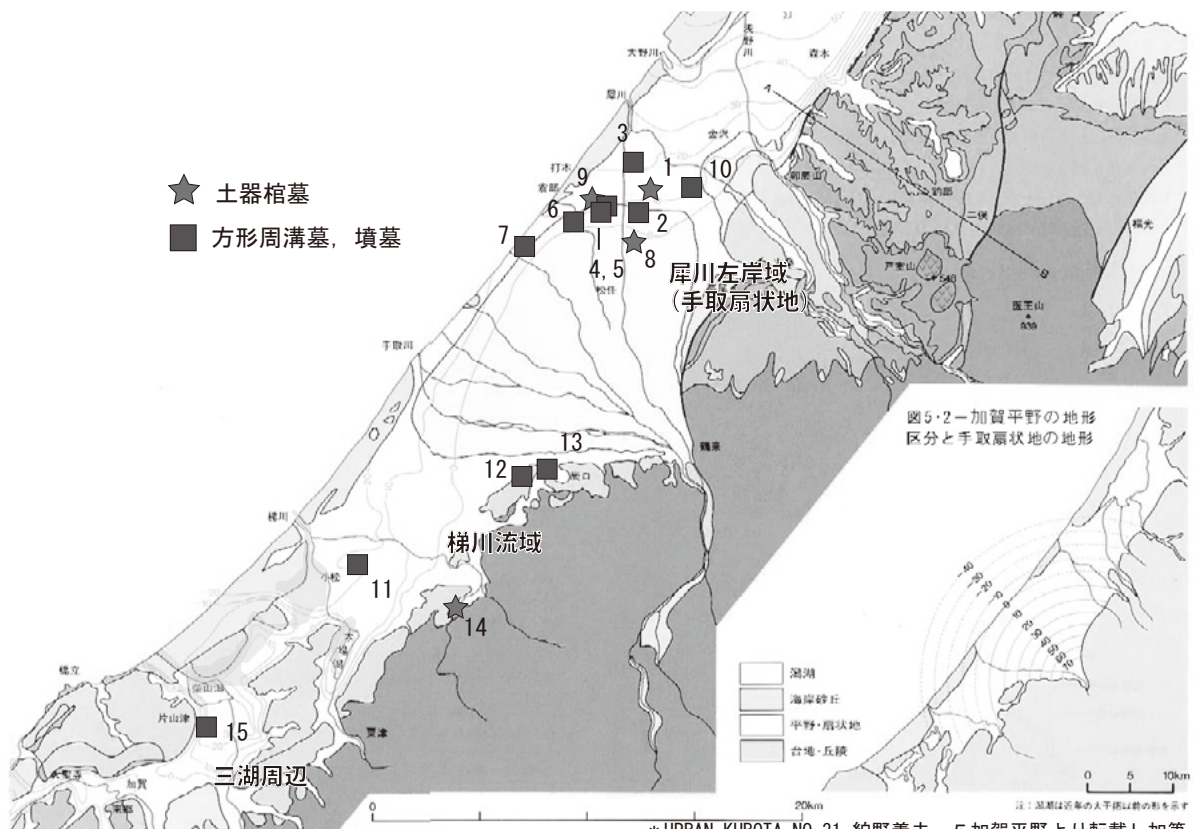
人骨の遺存は悪く、埋葬姿勢がわかる例はないが、墓壇法量から、成人、小人のおおよその判断はできるものとしてみていくと、Ⅴ期以降には、複数埋葬とともに小人も墳丘内に葬られる様相が見受けられる。

（3）副葬品

方形周溝墓主体部、木棺墓には、Ⅲ期からⅣ期にかけては、着装品と想定する管玉が複数みられる。Ⅵ期以降は、鉄製品（剣、刀、鏃）などが加わり、朱の撒布も確認できるものもみられるようになる。

参考文献

- 福永伸哉 1985「弥生時代の木棺墓と社会」『考古学研究 第32巻第1号』考古学研究会
福海貴子 2005「小松市八日市地方遺跡」『石川考古学研究会々誌 第48号』石川考古学研究会
福海貴子 2006「石川における墓と集落の位置関係」第12回例会要旨集中部弥生時代研究会
古川 登 2002「日本海地域における弥生集団墓の様相」『考古学ジャーナル 484』
布尾和史・安 英樹 2005「縄文晩期から弥生中期の遺跡群の変遷～手取扇状地遺跡群の検討から～」『第4回考古学研究会東海例会 縄文晩期～弥生中期の地域社会の変容過程』第4回考古学研究会東海例会事務局
前田清彦 1999「北陸の木棺墓とその展開」『北陸の考古学Ⅲ』石川考古学研究会
松任市教育委員会 1995『旭遺跡群Ⅰ』
松任市教育委員会 1995『松任市野本遺跡』



群	No.	遺跡名	属性	下野	I	II	III	IV	V	VI
手取扇状地	1	御経塚	集落 (土器棺墓)							
		御経塚シンデン								
		御経塚オッソ								
		チカモリ								
		新保本町西								
		矢木ヒガシウラ								
		矢木ジワリ								
	2	二日市イシバチ	集落 (方形周溝墓)							
		長池ニシタンボ								
		三日市A								
		横江古屋敷								
		横江E.C								
		末松廃寺								
		七原町B								
		上荒屋								
	3	上安原	集落 (方形周溝墓)							
	4	横江荘(西)	集落 (方形周溝墓)							
	5	横江A	集落 (方形周溝墓)							
		横江荘(東)								
		中屋サワ								
		中屋ヘシタ								
		専光寺養魚場								
		佐奇森								
		八田中ヒエンモンダ								
		下安原								
		下安原海岸								
		八田中								
	6	旭遺跡群	集落 (方形周溝墓)							
		宮永坊の森								
		宮永市								
		宮永市カイリョウ								
		宮永市カキノキバタケ								
		倉部出戸								
		浜竹松								
		北安田北								
		宮保光明寺								
		相川新								
		中相川								
		東相川								
		東相川B								
		東相川D								
		竹松E.C								
		平木A,B,D								
	7	野本	集落 (木棺墓)							
		徳光ヨノキヤマ								
		法仏(B地区)								
		中村ゴウデン								
手取扇状地	8	乾	集落 (土器棺墓,配石墓)							
		長竹								
	9	中奥・長竹	集落 (土器棺墓)							
		安養寺上林								
		窪二丁目								
		押野タチナカ								
		押野ウマワタリ								
		押野大塚								
		押野西								
		荒屋								
	10	横川・本町	集落 (方形周溝墓)							
		高橋セボネ								
		大額キョウデン								
		扇台								
		額谷								
		額谷ドウシンダ								
	11	八日市地方	集落 (方形周溝墓) (土墳墓)							
		梯川鉄橋								
		平面梯川								
		白江梯川								
		漆町(群)								
		佐々木アサバタケ								
		吉竹								
		八幡								
		千代オオキダ								
		一針B・C								
		大長野A								
		千代デジロA								
		牛島ウハシ								
		和田山下								
	12	西山墳墓群	墳墓							
	13	寺井山墳墓群	墳墓							
		銭畑								
		松梨								
		高堂								
		中庄								
		八里向山								
		河田山								
	14	六橋	集落 (土器棺墓)							
		念仏林南								
		額見町西								
		柴山出村								
		新堀川								
	15	猫橋	集落 (方形周溝墓)							
		弓波								
		島								
		潮津スワンヤブ下								

*手取扇状地は (布尾・安 2005) を基に作成。

I 期は長竹式～柴山出村式、II 期は矢木ジワリ式、III 期は、寺中式～小松式、IV 期は磯部式～戸水 B 式、V 期は猫橋式～法仏式、VI 期は月影式を概ね示す。
木棺形式は (福永 1985) を参照

